平成 28 年度連合農学研究科修了式

本日、東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程を修了し、晴れて博士号を取得された皆さん、おめでとうございます。 教職員一同を代表し、心よりお祝い申し上げます。

本年は、生物生産科学専攻 6 名、応用生命科学専攻 4 名、環境資源共生科学専攻 11 名、農業環境工学専攻 3 名、農林共生社会科学専攻 2 名、論文博士 1 名、計 27 名の皆さんが、新しい世界へ飛び立っていくこととなりました。 この 3 年間、皆さんはさまざまな経験をされたと思います。 学士課程、そして修士課程を終えて、さらに深く厳しい研究の道に足を踏み入れたわけですから、楽しいばかりでなく、挫折や困難を乗り越え研鑽・努力を重ねる厳しい日々でもあったことでしょう。 今、皆さんの胸中は、きっと晴れ晴れとした達成感、そして未来への期待で溢れていると思います。 しかしここで今一度、皆さんが学業に励んできた間皆さんを支えて下さったご家族、ご友人、関係者の方々に対する感謝の気持ちを思い起こして下さい。皆さんが今日この日を無事に迎えることができたのは、こうした方々が陰になり日向になり支えてくださったからこそです。 我々教職員一同もその暖かいご支援に心からの謝意と敬意を表しつつ、この晴れの日の喜びを共に分かち合いたいと思います。 また、本日巣立っていく 27 名は、これからお互いの人生の良き仲間、共に困難に立ち向かうパートナーであり、切磋琢磨するライバルともなる人たちです。 この大学で培った関係を長く暖め、大切にして下さい。

ご存知の通り、皆さんが学んだこの連合農学研究科は 3 つの大学が連携して教育・研究を行うという特徴的な形をとっています。 これは、農学という環境・資源・食糧のいずれの側面から見ても人類の健康的な存続に最も直接的に係る研究分野をより効果的に究めていくために生み出された形です。 今、農学分野は「人類の健康的な存続に最も直接的に係る」と申し上げましたが、つまり皆さんの研究は最も人間的である必要があると言えるかもしれません。 その昔マハトマ・ガンジーがキリスト教の 7 つの大罪に擬えて掲げた 7 つの社会的罪『Seven Social Sins』のうちのひとつ、『Science without humanity』を最も遠ざけなければならないのです。 また仏教では欲には自分の幸福を追求する小欲と他者や社会の幸福を追求する大欲があると言われているそうですが、皆さんにはこの大欲を持って研究に邁進していただきたい。 常に視点を人類の幸福に置き、人類が存続していくこの地球環境を健康に保ち続ける、そのために精力を傾けるのが皆さんに課された使命です。 皆さんが大学の研究科という場所で、しかもこの連合農学研究科という特別な環境で受けてきた高等教育は、残念ながら誰でもが簡単に受けられるものではありません。 だからこそ、皆さんは皆さんに課された使命を全うする責任がある、そして全うするだけの様々な能力をこの環境の利点や特徴を余すところ無く享受して養ってきた、と私たちは信じています。 さらにひとつ言うならば、科学者はえてして好奇心が強い。 好奇心が強くなければ研究など長続きしませんから。 しかしそのため視野が狭くなりがちだとも言えます。 だからこそ常に意識的に視線を上げ、周囲を見渡し、未来を見据えるように常に気をつけなければなりません。「この現象はおもしろい」、

「もっと先はどうなるのだろう」だけではなく、「これによって人類や地球環境が本当に良くなるのだろうか」、「世界の役に立つのだろうか」まで考えて欲しいのです。 自分たちの発見が、自分たちの成果が、「そんな風に使われるなんて考えもしなかった」ではだめなのです。 繰り返し言います。 皆さんには責任があります。 社会人としてはもちろん、研究者として、技術者として、科学者として。 深く、広く、遠くまで見て考えて行動する――そのことを心に銘じて、これからの人生を強く伸びやかに歩んでいっていただきたいと思います。

次に皆さんにお会いするときには、さらに成長した頼もしい姿を見ることが出来ると期待しています。 そして本学も皆さんの母校として誇れる心強い基柱となるよう、またいつでも皆さんのお手伝いが最高の形で出来るよう、グローバル・イノベーションはじめ様々な挑戦的取り組みを推進して、世界の役に立ち世界に認知される実力ある大学作りに一層の努力をしてまいります。 これからも同窓会活動やそれぞれの仕事を通して互いの交流が有意義に深まることを願い、そして最後にもう一度皆さんの今後のご健闘・ご活躍を心よりお祈りし、告辞とさせていただきます。

平成 29年 3 月 16 日

東京農工大学長　松永　是